

自分のまちの好きなところ嫌いなところ—風景描画法による態度の分析—*

Favorite and hateful aspects of my town - Analysis of attitudes using landscape drawing method -*

高崎いゆき¹⁾・佐藤菜生²⁾・吉川肇子³⁾・藤井聡⁴⁾・桑垣玲子⁵⁾・堀井秀之⁶⁾・竹村和久⁷⁾

By Iyuki TAKASAKI¹⁾・Nao SATO²⁾・Toshiko KIKKAWA³⁾・Satoshi FUJII⁴⁾・

Reiko KUWAGAKI⁵⁾・Hideyuki HORII⁶⁾・Kazuhisa TAKEMURA⁷⁾

1. はじめに

描画法は描き手の潜在意識を投影する心理検査の手法として広く使用されている。臨床心理学や精神医学の領域においては、クライアントに描画をさせ、その描画の特徴から、臨床的な診断を行うということがなされている (Koch, 1952 林他訳 1970)。さらに、我々はタブーが存在したり、社会的望ましさの観点から認知を言語報告しにくいようなケースで、一般成人を対象にして、描画を用いた調査手法を用いたことがある (竹村・吉川・村尾・Maglambayan, 2003)。この研究では、描画による心理検査は臨床の場面だけでなく、社会調査や消費者行動の調査などの多方面にわたって利用可能であることが示された。本研究では、一般市民を対象とした社会調査において風景描画法を用いた意識調査を試みた。調査は地域振興とまちづくりに関する意識・要望のインタビューと併せて、「自分の住む町の好きなところと嫌いなところ」を絵に描かせて、その描画内容を数量化して分析した。これにより、土木計画に資する情報を抽出することを意図した一般的な調査における描画法の利用可能性を検討した。

2. 方法

「地域振興とまちづくりに関する意識・要望」についてのインタビュー調査の一環として、風景描画法を用いた。具体的には、「自分の住んでいる町の好きな点、嫌いな点」に関する意識を絵に描いてもらうことで分析した。

調査対象地域と時期：茨城県常陸太田市 (2004 年 8 月 4 日)、鳥取県国府町 (2004 年 8 月 18 日)。なお、国府町は 2004 年 11 月に鳥取市に吸収合併された。

対象者：今後の地域をになう 20 代、30 代の若い層を対象とし、地域内在住者、職業不問とした。常陸太田市は男性 5 名 (年齢：平均 29.0 才, SD 6.7) 女性 5 名 (年齢：平均 31.8 才, SD 5.7)、国府町は男性 6 名 (年齢：平均 28.5 才, SD 5.2) 女性 6 名 (年齢：平均 29.0 才, SD 5.1) であった。**描画方法：**60 分ほどのインタビューの最後に A4 用紙 2 枚と B の鉛筆を渡し「あなたの住んでいるまちの好きなところと嫌いなところを 1 枚ずつ描いてください。」と教示した。時間は 10 分程度とし、描き終わったあとで描いた内容について簡単な説明をもらった。

描画分析方法：描画に描かれたすべての項目を抽出し共通カテゴリーに分類し、描画ごとに描画項目の有無を評価しカテゴリーごとに集計した。その結果を常陸太田市の好きなところ、嫌いなところ、国府町の好きなところ、嫌いなところごとにまとめその特徴を分析した。

*キーワード：描画法、地域振興策調査、地域都市計画

1)非会員、文修、早稲田大学大学院文学研究科竹村研究室
(東京都新宿区戸山1-24-1、

E-mail:iyuki.takasaki@suou.waseda.jp)

2)非会員、文学、早稲田大学大学院文学研究科竹村研究室
(同上、E-mail: nao-sato@moegi.waseda.jp)

3)非会員、文博、慶応義塾大学商学部
(東京都港区三田2-15-45、TEL03-3453-4511)

4)正員、工博、東京工業大学大学院理工学研究科
(東京都目黒区大香山2-12-1、TEL03-5734-2390)

5)非会員、文博、日本エヌ・ユー・エス株式会社
(東京都港区海岸3-9-15、TEL03-5440-1852)

6)正員、工博、東京大学工学研究科
(東京都文京区本郷7-3-1、TEL03-5841-6090)

7)非会員、学術博、早稲田大学文学学術院
(東京都新宿区戸山1-24-1、TEL03-5286-3549)

表 1. 描画分類カテゴリー一覧

描画カテゴリー	描画内容
自然風景	山, 川, 海, 田畑, 土手, 石
草木	草, 花, 木, 桜
空	太陽, 月, 星, 雲, 雪
生き物	虫, 魚, 鳥
建物	ビル, 家, 神社, 展望台
人	自分, 家族, 知人, 住民, 通行人
交通	道路, 橋, 駅線路, 踏切, 車, バイク, 自転車, 公園
イベント	祭り, セタ, 桜祭り, 御輿, パーベキュー

3. 結果

茨城県常陸太田市の住民10名、鳥取県国府町 (旧) の住人12名が描いた、住んでいる町の好きな点、嫌いな点の絵44枚を基に分析を行った。常陸太田市の住民の描画例を図 1, 2 に示した。この例からわかるが、常陸太田

市、国府町ともに住んでいるまちの好きな点には家の近くの田園風景を描いたものが多くみられ、嫌いな点は交通事情を描いたものが多かった。また、表1の描画分類カテゴリごとに描画を分類し、常陸太田市(好き)・常陸太田市(嫌い)・国府町(好き)・国府町(嫌い)ごとに集計した結果を表2に示した。



図1.自分のまちの好きなところ(常陸太田住民A)

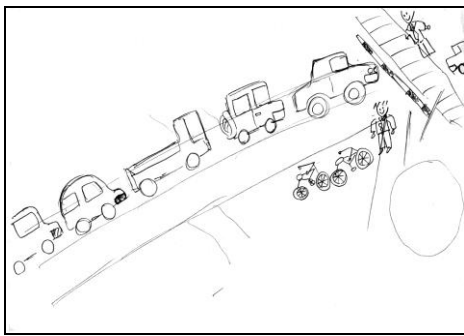


図2.自分のまちの嫌いなところ(常陸太田住民A)

表2. 地域別好き嫌い別描画項目数

	描画項目数									1人平均
	自然風景	植物	空	生物	建物	人	交通	イベント	その他	
常陸太田(好き)	16	7	2	3	6	5	5	6	6	4.67
常陸太田(嫌い)	5	1	1	0	3	5	15	0	5	2.92
国府町(好き)	19	3	4	4	7	8	7	1	1	4.50
国府町(嫌い)	2	1	1	1	1	3	9	2	1	1.75

表3. 自分のまちの嫌いなところ(交通環境) 一覧

常陸太田

- 朝夕の通勤時に駅の混雑がいやだ。
- 車から川へゴミの投げ捨てが多い。
- 雨の通学路が危険。
- 踏切での車の渋滞。
- オートバイがうるさい危険。
- 高速道路の脇にゴミの山があり汚い。
- 交通の便が悪い。
- 夜、車での帰宅路が寂しい。
- 都会から車での帰宅路が寂しい。

国府町

- 家の前の道が狭く車の運転で左折が難しい。
- 雪の日の狭い道路の運転が危険(車が道から落ちる)。
- 抜け道の山のカーブにゴミが捨ててある。
- ダム工事のトラック。騒音、スピードを出すので子供が心配。
- 年寄りが多く、道を自分勝手に歩くので運転して怖い。

表2から、常陸太田市、国府町ともに好きなところには自然の景色が多く描かれており、嫌いなところには交通環境や交通事情の項目が多いことがわかった。交通環境の問題を表3にまとめたが、特に、公共交通(鉄道)の設備の悪さによる不便さやそれにより自家用車が交通手段になることから自家用車による移動に伴う問題が多くあげられていた。また、1人の描画項目平均は好きなところで常陸太田4.65、国府町4.50、嫌いなところは常陸太田2.92、国府町1.75となっており、好きなところの描画項目が嫌いなところより有意に多くなっていた($t = -4.889, df = 47, p < .001$)。また、表2のデータから地域ごとの好きなところ・嫌いなところの相関関係を分析した。その結果、常陸太田と国府町の嫌いなところは強い相関($r = .909, p < .01$)があり、好きなところはやや強い相関($r = .787, p < .01$)が認められた。常陸太田の好きなところと嫌いなところ($r = .136, n.s.$)、国府町の好きなところと嫌いなところ($r = .181, n.s.$)ともに有意な相関は認められなかった。地域別好き嫌い別の描画項目集計データ(表2)を用いてコレスポンデンス分析を行い自分の街の好きなところと嫌いなところに関する住民の意識を図3に表した。1次元64.9%、2次元25.0%と第2次元までで90%の説明率を得た。図3から、第1次元は自分のまちの好きなところと嫌いなところの評価軸となっている。好きなところには自然風景、草木、空、生き物、建物、イベントなどが描かれ、嫌いなところには主に交通に関する項目が描かれている。人に関する描画項目は好きと嫌いの中に位置し、どちらの要因にもなっていることが示されている。第2次元は常陸太田市と国府町の好きなところの違いの評価軸となっているといえる。どちらの地域も自然風景や生き物、建物が描かれているが、特に常陸太田市ではイベントや草木の描画項目が多く、国府町では空に関する描画項目が多く描かれていた。嫌いなところに関しては常陸太田市も国府町も交通に関する描画項目に偏っており、大きな違いはないことがわかる。

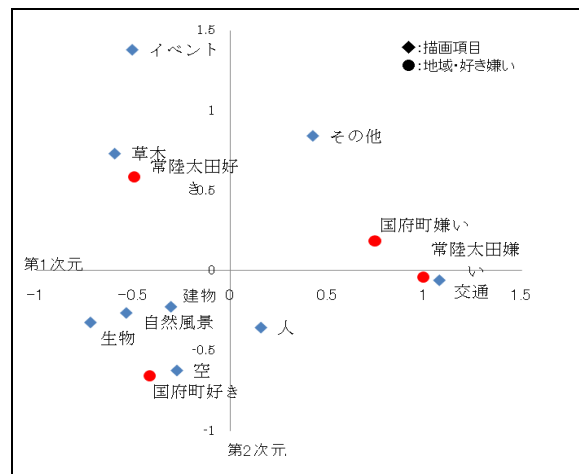


図3.描画項目と住民意識の分布

4. 考察

本研究では、茨城県常陸太田市および鳥取県国府町(旧)の住民に、描画法を用いて「自分のまちの好きなところと嫌いなところ」の意識調査を実施し、描かれた内容を数量化し分析した。各絵の描画項目数(表2)から、好きなところの方が嫌いなところよりも描かれている項目が多く、好きなことはイメージが広がりやすく、嫌いなことは一つのことにはスポットが当たる傾向が認められた。どちらのまちでも、好きなところは風景や草木・生物などの自然環境が多く、嫌いなところは交通に関する項目に焦点があたるという点では、インタビューによる調査結果と一致する知見であった。さらに、描画項目を基に実施したコレスポンデンス分析から、常陸太田市では好きなところに草木やお祭りなどのイベントが描かれ桜祭りや夏祭りに関心が高く、国府町では太陽や星が描かれており、「好きなところ」の地域差を明らかにすることができた。この結果から、一般的な調査において描画法を用いることでインタビューと同様の結果を得られるだけでなく、地域差を明確にすることができた。描画法は言語を伴わないため、幼児や多言語地域の調査ツールとしても有効であり、その利用可能性の高さが示唆された。

参考文献

- コッホ C. 林勝造・国吉政一・一谷彊(訳)(2002). バウムテスト 日本文化科学社
- 竹村和久・吉川肇子・村尾智・Maglambayan, (2003). リスク認知の様相—フィリピン・イトゴン市における鉱物資源採掘労働者を中心にした面接調査— 日本社会心理学会第44回大会発表